

第30期東京都立図書館協議会（令和3年7月～令和5年6月） 「都立図書館のDXとその先にあるサービス」（提言） 概要

第30期提言は、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」と定義し、DXを活用した「目指す都立図書館像」を「いつでもどこでも誰でも利用できる図書館」と設定した。その上で、2年間にわたり「図書館におけるDXによる利便性向上」「利用者の変化に応じたサービス」という2つの観点で議論し、多くの取組を提起し、提言を示した。

（1）図書館におけるDXによる利便性向上

「サービスのDX」、「情報資源のDX」、「施設・空間のDX」、「マネジメントのDX」、「DX推進のリーダー」、「プラットフォーム・既存技術の活用」の6つの柱を立て、提言をまとめた。

6つの柱は、それぞれ「攻めのDX」、「守りのDX」に分類することができる。「攻めのDX」は、「サービスのDX」、「情報資源のDX」、「施設・空間のDX」が主に該当し、それによって図書館の競争力を強化し、新たな価値創造力を高めるものである。「守りのDX」は、「マネジメントのDX」、「プラットフォーム・既存技術の活用」が主に関係し、業務効率や生産性向上などを目指すものである。「DX推進のリーダー」は、「攻めのDX」、「守りのDX」をともに推進するものであり、公立図書館界のリーダーとしてDX推進の旗振り役となることを目指すものである。

1 サービスのDX	(1) レファレンスサービスのDX
	(2) 自宅からコレクションに出会う
	(3) 都内図書館を一つに
	(4) 都立図書館が使用するプラットフォーム
2 情報資源のDX	(1) デジタル資料の充実
	(2) デジタルアーカイブの充実
	(3) コレクションへのアクセス向上
	(4) 迅速正確な収集管理
3 施設・空間のDX	(1) 快適な利用空間
	(2) 新たな価値創造空間
	(3) 働きやすい職場空間
4 マネジメントのDX	(1) 組織体制の改革
	(2) 職員の研修
	(3) EBPMの推進
	(4) 働き方の改革
	(5) 利用者へのリーチ
5 DX推進のリーダー	(1) 都内図書館や都立学校等との連携強化

	(2) 出版業界団体や関係省庁等への働きかけ
	(3) イベント情報の標準化と共有
6 プラットフォーム・既存技術の活用	(1) プラットフォームの活用
	(2) ICT ツールの活用

(2) 利用者に応じたサービス

「利用者の変化に応じたサービス」は、状況により図書館利用が難しい利用者群を想定し、主に「図書館利用に障害のある人々」、「日本語以外を母語とする人々」、「高齢の人々」、「働く人々、子ども・子育て中の人々」、「学校教育を受ける人々」の5つの類型を設定した。多様な背景をもつ人々に対して、ユニバーサルデザインの視点も踏まえ、デジタルの力を借りてサービスを届けることとし、提言をまとめた。

1 図書館利用に障害のある人々	(1) 関係者の人材育成支援
	(2) 都内の障害者サービス非実施地域の補完
	(3) テキストデータの製作と提供
	(4) 民間のアクセシブルな電子図書館サービスの基盤整備
	(5) デジタルデータ収集への出版界への働きかけ
2 日本語以外を母語とする人々	(1) 場所を介した交流機会の提供
	(2) デジタル技術を学び合う
	(3) サインシステムと情報発信のこぼ
	(4) 図書館の情報発信のあり方
	(5) 多言語絵本の活用
	(6) 多言語電子書籍の提供
3 高齢の人々	(1) デジタル機器利用のサポート
	(2) 利用者のピアサポート等の支援
	(3) 図書リストの公開
4 働く人々、子ども・子育て中の人々	(1) 非来館型のサービス
	(2) オンラインによる読書イベントのホスト
	(3) 子ども向けプログラミング・STEAM 教育
	(4) ビジネス支援のためオンラインによる講座
5 学校教育を受ける人々	(1) 学校向けの電子図書館サービス
	(2) 学校図書館支援センター的機能の強化
	(3) 関係者の人材育成支援